

京都の生協

NO. 7

- 京都府生協連設立35年を記念するつどい
- 第4回シンポジウム——学術・文化・教育のまち——京都
- 連載——海外の協同組合／京都の小売業／京都の産業と経済の動き

発行/京都府生活協同組合連合会 January ● 1987

〒604 京都市中京区夷川通烏丸東入ル西九軒町291
せいきよう会館内 ☎211-8519



耕す

「くたびれている私は／せめて人に見えていないところでだけ／楽に思いきり背中を丸くしていまうと思う／ところが目に見えぬ固定剤がふりかかって、人が来てものびなくなっている。まるで百姓が百姓顔になるように／泥棒が正直なふうをしてもダメなように」(水瀬清子『短章集』より「固定剤」)

「世はカルチャーブーム。『カルチャーショック』は異文化に接した時受ける衝撃という言葉の意味にとらわれることなく流行語となり、カルチャーセンターの乱立でカルチャー族が生まれ、浅薄皮相な文化・教養がまん延しています。このカルチャーという言葉、動詞は Cultivate(耕作する、修

養する)。耕すことと、教養を修めることが同じ言葉で表わされるわけです。農業の最大の特徴は、それぞれの上地の自然条件——地形や土壌の状態、気温状態、降水量etc——に強く制約されていること。大地や水(雨)など、人知の及ばぬものに対する信仰が生まれ、農耕文化が生まれてきたことを考えるに、語源的なものをうかがい知ることができます。

ただこの耕すという作業、なかなかつらいものです。一年の収穫を終えた畑を耕さない限り、新しい実りはなく、固定剤がふりかかるのを避け耕し続けられない限り、新たな文化・教養は身につかないのですから。



随想

余暇調査に想う

立命館大学生活協同組合理事長・立命館大学助教授(会計学)

田井修司

今日、「価値観の多様化」や「個性化」という言葉が現代青年の生活や行動を説明するキーワードとして市民権を得たようにも思われる。現在の大学生の四人にひとりには楽器の演奏が上手にこなせると聞かされると、ハーモニカも満足に吹けなかった私などには「価値観の多様化」は自分を納得させる便利な用語にはちがいない。また、「価値観の多様化」とまでいかなくとも「趣味の多様化」として位置づけ、大学生の生活を理解したつもりになるのが精一杯であった。

しかし、考えてみると「趣味の多様化」と位置づけても、大学生の趣味や余暇的生活の世界をいわば、ブラックボックスの中においてきたことには変わりはない。確かに、「新人類」をはじめ、現代の若者の行動を特徴づける標語には事欠かないが、大学生自身の生活の立場からトータルな生活を分析した調査や研究が数少ないことも事実であろう。その意味で、大学生協連が公表した「大学生の生活と余暇」についての調査報告書には教えられるところが大きい。

それらのいくつかを示すと、まず、ライフサイクルからいえば人生の余暇期とみられる大学生が余暇をどのように位置づけているか大変興味深い。やすらぎ、自由な時間、自己実現とかいった余暇観が目につく。その内容を行動としてとらえてみると、友達との交流をはかる、楽しい気分をひたす、知識や教養を高めるが高位にくる行動パターンである。友達と楽しくは確かに「余暇行動の二大要素」といえそうである。知識や教養も重視している点は大学生の特質ともいえよう。大学で学ぶこと自体がそれにあたるし、やはり、知的関心は余暇行動のベースにもあるように思われる。

さらに自由時間のすごし方は自分で計画する者が圧倒的に多く、友達にさそわれては少ない。「大学の授業は重視して、主体的、計画的にやっという姿勢がうかがわれる」とする分析結果は積極的に受けとめていく必要があると思われた。とくに余暇行動において、友達との交流が大変重視され、主要な情報源となっているだけでなく、グループ行動等に見られる仲間づくりを通じた成長は大学生の関心事とみることができる。

そして、彼らは10年後の日本人のライフスタイルを余暇の使い方が上手になる、仕事よりも余暇を重視すると予想するが、これが現在の大学生の余暇観ともいえそうである。「価値観の多様化」を問題とするならば、これからは、彼らが自立にむけて、また仲間のなかで、文化的、社会的、政治的な価値を創造していく時代ともいえよう。私たちの生協運動も、協同の輪のなかで考えていくべき共通の課題のように思われる。

CONTENTS

- 11 …… 盛会だった「設立35年を記念するつどい」
 - 7 …… 協同組合フェスティバル'86
 - 8 …… 連載④ 海外の協同組合見聞録「ハンガリーの生協」
 - 10 …… 連続シンポジウム第4回「学術・文化・教育のまち～京都」
 - 14 …… 連載④ 京都の産業と経済の動き「高付加価値の京ものこれから」
 - 16 …… 連載③ 京都の小売業はどうなっている
どうなる「業態間競争で苦戦する小売市場」
 - 17 …… 気になるこの本/ミニミニ情報①
- 〈裏表紙〉 府生協連・消団連主催の集会案内/ミニミニ情報②

盛会だった 「設立35年を 記念するつどい」

● 京都府生協連

12月1日
からすま京都ホテル

「京都府生協連の設立35年を記念するつどい」が12月1日、京都市内・からすま京都ホテルで開催された。この「つどい」には各界から230名に及ぶ多数の方々の参加があり、京都の生協と京都府生協連が「地域社会の一員」としての活動を開始したことに励ましの声がよせられた。

「つどい」は第一部が記念式典。京都府生協連西尾雅七会長の「式辞」につづき、京都府知事、京都市長、日本生協連会長、全国大学生協連会長、京都府農協中央会会長、京都府漁連会長、京都府中小企業団体中央会会長の「祝辞」があいついで披露された。

「祝電披露」のあと、京都府生協連の井上吉郎専務が、京都の生協と京都府生協連が歩んできた道をふりかえりながら、今後、どのような課題に共通してとりくんでいくかを示した京都府生協連の「第四次中期計画」の概要などを報告した。

式典の最後に、京都府生協連の発展のために尽力された森清、浅井清信、永良巳十次の三氏を表彰し、記念品を贈呈した。

「つどい」の第二部は「祝賀会」。京都中小企業家同友会代表理事の橋本嘉雄氏のご発声による「幹杯」をうけて、日本社会党京都府本部、民社党京都府支部連合会、日本共産党京都府委員会など各界代表の方々から「祝辞」があいついでのべられた。会場内では談笑の輪がいくつもでき、終始、和やかな声が弾んだ。



「京都府生協連の設立35年を記念する つどい」の「式辞」「祝辞」から――

会長式辞

西尾雅七 (京都府生活協同組合
連合会会長)

京都府生活協同組合連合会の設立35周年を記念するつどいを催しましたところ、京都府生協連および会員生協が、日頃お世話になり、またご支援をいただいております方々のご参加を得まして、かくも盛大に取り行なわせていただけることを、主催者として誠にありがたく心からお礼を申し上げる次第でございます。

京都府生協連は1950年10月26日に設立総会を持ち、翌51年5月26日、京都府知事の認可を得て発足をいたしました。当時、消費生活協同組合法施行直後のことでございましたが13の組合が結集しているのです。以来35年を経過してまいりました間に幾多の試練に遭遇し、浮き沈みを重ねまして今日の状況に到達いたしました。すなわち現在、京都府生協連に結集しております組合は、地域、大学、職域、医療及び住宅、共済の分野にわたっておりまして17組合と1事業連合でございます。活動区域は京都府全域に及んでおりまして、それぞれの特性を発揮しながら組合員の健康とくらしを守るために努力を重ねております。おかげをもちまして次第に成果をあげようになってまいりました。先般、京都府生協連は第

四次中期計画を策定いたしまして、地域社会の一員としての生協運動を柱にすえて活動を始めました。それは各単協組合員はもとより京都府民の中に生協についての正しい理解が広がること、生活協同組合間の連帯を強化すること、及び他種の協同組合との連携と中小企業団体との協調を促進していくことなどを願っているものでございます。

たまたま私が会長理事を務めております関係で本日式辞を申し述べる仕儀に相成った訳でございますが、一言この機会に私見を申し添えたいと思っております。第二次世界大戦が敗戦で終戦いたしました。その後、日本は民主主義国家として再生いたしてまいりました。ところが近年、戦後政治の総決算という言葉とともに、復古調的な風潮がみなぎり始めました。しかも国、自治体の主催する行事、あるいはまた教育の中に次第にその姿が現れて参りました。他方昨年秋以来の為替変動により円高が急速に進みまして、大量の失業者が見込まれる状況が現出してまいりました。そのような状況にもかかわらず情報化のめざましい波によって悪徳商法がはびこり、消費財のはでで激しい売り込み合戦が進みまして、国民の日常生活が落ちつきを失って、そして何だか空虚な感じのする生活が営まれるようになってまいりました。このよう



式辞をのべる京都府生協連・西尾雅七会長



報告する京都府生協連・井上吉郎専務

な感じがいたします。

このような時こそ消費生活協同組合法の第一条にあります国民生活の安定と生活文化の向上を目標とした生協運動の拡大、強化にとめなければならないと考えるのであります。そのことが平和のもとでの落ち着いた国民生活をとり戻すことにつながり、そしてそのことがまた最も現在、緊要なことであると信じておる次第でございます。京都府生協連役員一同先に申し述べました地域社会の一員としての生協運動を柱とした活動に邁進してまいりる覚悟でございます。本日ご参加ねがいました皆様の今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻をいただき京都府生協連及び会員生協が今後とも活動しえますようお願いを申し上げますの次第でございます。

終りにあたりまして皆様のご健康とご健勝とご発展を祈りまして私の式辞を終わらせていただきます。ありがとうございました。

祝辞

京都府知事 荒巻禎一

本日ここに、京都府生活協同組合連合会設立35周年を記念するつどいを盛大に開催されるに当たり、一言お祝い申し上げます。

御承知のとおり、今日、消費生活協同組合は消費者運動の一環として生活物資の購買事業をはじめ施設利用事業や共済事業など広範な事業を行って、組合員の生活の安定と向上に大きく寄与していただいているところであります。

顧みますと、消費生活協同組合におかれては、明治33年に制定された産業組合法以降、さらに戦後の新しい消費生活協同組合法の下で再出発してからも、けっして平坦な道のみではなかったと思います。今日の隆盛は、ご参集の皆様方をはじめ多くの組合員の方々の生活を少しでも向上させたいとする努力の賜物によるものと深く敬意を表する次第であります。

京都府といたしましては、厳しい行財政状況のもとではありますが、21世紀に向け活力とるおいのある京都づくりを目指し、来年初の世界歴史都市博、63年の第43回国民体育

大会の開催、関西文化学術研究都市の建設などを通じて豊かな地域社会づくりに取り組んでいるところであります。

消費生活協同組合におかれましても、組合員の自発的生活協同組織との理念に則り、地域社会の発展及びこれとの調和に一層留意され、府民生活の安定向上に一層の貢献をはたされるようお願いいたします。

どうか京都府生活協同組合連合会がこの設立35周年を契機に、生協運動の連絡調整、指導機関としての役割を一層充実されますことを御期待申し上げ、お祝いのごあいさついたします。

祝辞

京都市長 今川正彦

京都府生活協同組合連合会の設立35周年を記念するつどいがかくも盛大にとりおこなわれますことをお祝い申し上げます。

生協連が会長理事を始め、役員の方々や傘下の生協、組合員の方の地道な活動の結果、府下全域に組織を広げられ、また、安全性を追求した独自製品の開発に取組まれ、よりよい商品を安価に供給する努力が続けられておりますことに深く敬意を表するものです。

こうした皆様方の努力が実り、現在のよう大きく成長された訳ですが、それにつれて生協活動にとって厳しい情勢が出てきております。このような時にこそ、生協活動の本旨・原則に則った活動を行うとともに、組合員の要求を汲上げる活動が必要と考えます。

本市におきましては、消費者保護のための消費者行政を推進してまいっておりますが、今日の消費者問題に的確に対応できるよう、なお一層の努力を重ね、消費者被害の防止と市民生活の安定のために全力を尽くしてまいりる所存であります。

皆様方におかれましては、組合員のくらしと安全を守ることはもちろん、自立する消費者として団結の輪を大きく広げられ、市民生活の安定・向上のためにさらに御尽力をいただくことをお願いしてお祝いの言葉とさせていただきます。

祝辞

京都府漁業協同組合
連合会会長 倉 武二

新冬を迎えた本日故に、京都府生活協同組合連合会の設立35周年記念式典が挙行されお招きを受け、御祝辞を申し上げる機会を頂きましたことを深く感謝申し上げます。

まずもって設立35周年、本当におめでたく同じ協同組合人として衷心からお祝いとお慶びを申し上げます。

一口に35年と申しましても今日に至る迄には設立に御腐心された発起人、その後の基礎づくりや組織強化に汗を流してこられた諸先輩の御尽力、更には会長を始めとする現執行部、それを支える職員、組合員等関係者各位の機能充実や事業向上に対する不断の御精進があったればこそこの輝かしい日を迎えられたものであらうと拝察致し、そうした皆様方に対し心から敬意を表し且つ御労苦をおねぎらい申し上げる次第でございます。

また、貴連合会を始め、傘下会員生活協同組合におかれては、近年その業績は、驚異的な躍進をなされつつあり、その成果は高く評価されているところであり御同慶にたえません。

御承知の通り協同組合は、人間愛にもとづく人と人との組織であり人間の幸せを求めていくことを基本理念としておりますが、社会経済が複雑多様化している今日、その理念を運動や事業に反映させていくことは容易ではありません。たゆまぬ自己研鑽と社会への謙虚な対応が必要であらうと自戒しているところでもあります。

協同組合原則の一つに協同組合間協同が加えられて以来、農漁協と生協等との業務提携が進み、協同組合の輪が広まって参りました。まことによるこぼしい限りであり、大いなる発展を期待するところでもあります。

しかしこの運動を真に実りあるものに定着させていくためには相互理解にもとづく信頼関係の確立が何よりも大切であり、短絡な取り組みは悔いを残すことになりかねません。その意味でそれぞれの協同組合はその立場は違っても心を通わし合って今後共通の道を求

京都府生協連の設立35



会長祝辞を代読する京都府漁連参事の杉村秀夫さん

めて地道な努力を続けていくことが大切であらうと思っております。

私共漁協系統は、極めて脆弱で組織する人もまことに零細であります。協同組合の一員として今後とも事業発展に微力を続ける所存でございます。

貴会の一層の御交誼の程、切にお願い致します。

貴連合会と会員組合のいよいよの御隆昌として所属組合員の益々の御多幸を心から祈念致しまして甚だ蕪辞乍ら御祝いの言葉と致します。

祝辞

京都府農業協同組合
中央会会長 田中慶紀

本日ここに京都府生活協同組合連合会設立35周年を記念するつどいが盛大に開催されるにあたり、お招きをいただきお祝辞を申し上げます機会を得ましたことを誠に光栄に存するところでもあります。

まず、設立35周年誠におめでとうございます。京都府下農協を代表いたしまして衷心よりお喜びを申し上げます。

一口に35年と申しましても、その間には幾多の試練があったと存じますが今日の発展をとげられました、これひとえに役員各位の御指導と会員の皆さんの結集の成果であります。

ここに35周年を記念されますと共にそのあゆみをふり返り、その成果を確認され、その上にたって今後更なる発展を期される誠に意義あるつどいであり、ご盛会を重ねてお喜び申し上げます。

さて、ご承知の通りわが国の農業・農協をめぐる環境は、きわめてきびしいものがあり

京都府生協連の設立35



会長祝辞を代読する京都府農協中央会参事の岡安八郎さん

ます。特にお米を中心として、日本の農業・農政に対する批判や圧力があいつぎ、最近では、一部のマスコミを動員してまでの批判は、私達農業者にとりまして憤を感じるところであります。

貴会におかれましては、米の輸入反対、食管堅持等国民食料の確保とわれわれの主張をご理解いただき感謝にたえないところでありますが、広く消費者の皆さんに農業・食料問題を正しくご理解いただくのは非常に骨のおれるところであります。

しかし、われわれは、国民の食料ときれいな水、美しい緑、そしてすみきった空気を守り発展させることが、私達の使命であり役割であると考えております。

とりわけ、世界的には、飢餓にあえぎ、餓死者の出ている国のことを考えるとき、食糧の問題、自然環境保全の問題は、ひとりわれわれだけの問題ではなく民族生存に係る重要な問題でありまして、広く消費者の皆さんに根気強く農業・食料に対する意義と正しい理解を求め、国民合意の上に農業を守り、発展させるよう最大限の努力をいたさねばならない時だと存じます。

農業・農協は、今非常にきびしい試練にたたされていますが、いよいよ結束を固め、英

京都府生協連の設立35



会長祝辞を代読する京都府中小企業団体中央会事務局長の松尾茂男さん

知を結集して、この難局を乗り切らねばならないと存じます。今後とも友好団体として手を携え、ともにがんばることをお誓して、誠に粗辞ではありますがお祝いのお言葉いたします。

祝辞

京都府中小企業団体
中央会会長 古川敏一

京都府生活協同組合連合会がめでたく創立35周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

この間、歴代の役員及び会員生協の皆さん方は、幾多の困難を乗り越え一丸となって京都府下における消費生活協同組合の拡充発展に尽力してこられました。

その結果、今日では、18の生協が連合会に結集され組合員数は合わせて50万人に達し地域社会の一員として、深く京都府下の隅々にまで根づいています。

その間、わが国の経済は、戦後の荒廃と困窮から国民の血のにじむような努力によって、大きく成長して参りましたが、その反面、生活環境を損ない各種の公害問題を誘発するなど多くの問題を生みだし、また、最近では、国



お祝いのチェロ演奏（松原和男さん）



日本共産党京都府委員会委員長の田中弘さん



日本社会党京都府本部を代表してあいさつする細川政之輔京都市議団長



民社党京都府支部連合会書記長の安孫子隆秀さん

際的な経済摩擦や急激な円高によってデフレや雇用不安など、私たちの営業や暮らしの基盤である地域社会を大きくゆるがせています。

日本経済の構造調整の路線によって炭鉱や造船所が閉され国民の足である国鉄の解体が決定し中小企業の倒産や転廃業が相次ぐという社会情勢のなかで、消費生協のみならず農業協同組合や中小企業協同組合など各分野の協同組合が、それぞれをとりまく環境条件のなかで大きな転機を迎えています。

このような時にこそ生協は、しっかりと足もとを固め新しい情勢に対応しつつ発展を図ってゆくことが必要であります。そのためにも総合的な指導調整機能としての生活協同組合連合会の重要性はますます高まってゆくものと考えられます。

創立35周年をステップとして皆様方が一層結束を固められ消費生活協同組合の発展のためご奮闘されますよう期待いたしますと共に協同組合の原則である協同組合間の協同を通じて豊かな21世紀の京都をめざして協同組合運動の輪がより大きく広がりますよう祈念して祝辞といたします。

祝電

京都府生活協同組合連合会の設立35周年記念をお祝い申し上げます。国内外の経済のあゆみとともに物流センターとして、いっそうのご発展、ご活躍をいのります。

衆議院議員
奥田 幹生

設立35周年を心からお祝い申し上げますとともに貴連合会の今後いっそうのご発展とみなさまがたのご健勝をお祈りいたします。

参議院議員
林 田 ゆきお

京都府生活協同組合設立35周年を祝い、ロッチデール精神にもとづく消費者運動の健全な発展を期待いたします。

民社党副委員長
永 末 英 一

京都府生協連の設立35周年をお祝い申し上げますとともに、今後のいっそうのご発展をお祈り申し上げます。

参議院議員 神 谷 信之助
衆議院議員 藤 原 ひろ子
衆議院議員 寺 前 いわお
前衆議院議員 梅 田 勝

協同組合フェスティバル'86

府民の一割が 生み出した 新しいドラマ

秋晴れが続く京都——。11月1日から3日間、「協同組合フェスティバル'86」が、府民の1割の人びとの参加を得て開かれた。KBS京都が提唱し、府内の重要な協同組合組織が共催・後援したこのイベントは、新たなドラマを生み出した。農協、生協、漁協、森林組合、中小企業協同組合が、それぞれの持ち味を発揮して、府民をむかえ、府民の前に協同の輪を広げた。生産——流通——消費を結ぶ協同組合の連帯がいっそう確かなものとなった。

人びとは、祭りを心の底から楽しんだ。家族づれでの参加が目立つ。舞台に見ほれ、聞きほれる人。両手いっぱいの買物袋をさげる婦人。木工広場に座り込む子ども。生産物の即売に、本職顔まけの声を張りあげる生協組合員。「サァー、どうだ」の掛声も勇ましい魚売場の人。人と人とのふれあいが広がった3日間、私たちが住む京都を、私たちが新しく発見した3日間でもあった。こんなに多くの人が、こんなにいろんなものをつくり、消費しているのかを知った3日間となった。

協同組合フェスティバル



美山町長の山内忠一さん（左上）府立大学教授の寿岳章子さん（左下）京都消団連代表幹事の山本三千子さん（左中）北海道生協連専務の国井和夫さん（右上）

1986年11月1日から16日まで、日本生協連「ヨーロッパ農業・食糧問題調査」視察団の事務局として、ハンガリー、イタリア、スペインの3カ国を訪問し、各国の生協・農協をまわってきました。ここでは、ちょうど「動乱30周年」を迎えたハンガリーの協同組合の活動の一端を紹介しましょう。

ハンガリーの生協とは

ハンガリーの協同組合は、3種類（消費、農業、工業）に分れています。そのうちの消費協同組合部門が、次の6つによって構成されています。①総合消費・販売協同組合（日本的にいう“生協”、以下、「生協」とする）、②貯蓄協同組合、③住宅協同組合、④集合住宅メンテナンス協同組合、⑤カーガレージ協同組合、⑥レクリエーション協同組合。

そもそも、ハンガリーの生協は、1904年に創立されて以来、主として農村部で活動してきましたが、この10年余の間に都市部（特にブダペスト）における活動を増大させてきています。そして、生協の経済事業としては、消費物資の小売、農産物の買付・販売、さらに関連工業生産、そして建築、輸送、サービスなど、ほとんどすべての生活分野に関係しています。

ですから、小売事業だけでみても、生協はすべての市町村で店舗や食堂を経営しています。そのうち85%の地域では、生協店舗が唯一の商業施設となっています。その結果、小売シェアでは約1/3になり、店舗数・売場面積ではほぼ半分を占めるに至っています。

国民生活に密着している生協

「ハンガリー生協組合員になるには、どうしたらいいのですか？」と尋ねてみると、加入するための出資金は、500フォリント（＝約2,250円）との答えがかえってきました。私たちは、ハンガリー生協に加入しようと試みましたが、残念ながら「ハンガリー国籍」が必要だそうです。ただし、「生協活動の基本的部分は、住民全体が自由に享受できるし、組合員は；それによって割戻しや割引を購買時に受ける権利を得るところのいわゆる『株券』や『特別株』によって物質的に結び付け

連載④ 海外の協同組合

見聞録

ハンガリーの生協

“体制”を越えて、協同組合関係者として多くを学べる、「生きた教材」＝ハンガリー協同組合運動の到達点

〔写真右上〕ハンガリー生協連の本部で、右から目
がスラメニツキー会長、左から2人目が筆者。
〔写真下〕生協の小型店——ABC。



られる」そうです。つまり、たとえば、土曜日の午後の閉店時間のあとに、“証明書提示”によって組合員のみ20%割引があったりします。

ハンガリー生協では、シカラ・コープという卸売会社ももっています。1979年、生協の卸売会社とシカラという生協の百貨店が合併して、新たな事業領域を創設しました。もともと、生協百貨店シカラは、1976年にブダペストに設立され、ハンガリー第一の規模のデパートとして出現し、その後も国営デパート（セントル）と激しい競争下にあります。

シカラ・コープでは、この春にブダペスト市卸売市場を買収して、生協の「青果物集配センター」を新設しています。日本的に言えば、まさに“産直センター”です。

農業生産物の70%が農協により、20%が国営農場により、残りの10%が個人によって生産されています。そして、国営と協同組合と個人企業の3種類の卸・小売機関があります。

このように、ハンガリーにおいては、生協・協同組合が生活のあらゆる分野にかかわり、その多様性を発揮しています。つまり、ある協同組合関係者の弁によると、〈①鉄砲を作ること、②貨幣を作ること（いずれも国家専売）、③“売春”（社会主義的理想に反する）〉これら以外のことであれば、生協・協同組合が何をやってもいいとのこと。そこで、人びとは、同時にいくつもの協同組合に参加でき

しているとのこと。そこで今、「大きくなった協同組合のための民主主義を確立させること」を強調していました。

“世界一の研究所”を訪ねて

今回の視察では、「協同組合研究所」も訪ねましたので、最後に、簡単に紹介しておきます。実は、何がどう“世界一”なのか分らぬまま（というのは、この“世界”の状況が分からないため）、貴重なお話を伺ってきました。

1963年に、前身の「ハンガリー生協図書資料室」が設立され、1968年には、“科学的雑誌”が発刊され、1972年に全国協同組合評議会の理論研究所として「協同組合研究所」が創設されました。予算は先に述べた3つの協同組合評議会が出し合っています（1986年度400万フォリントずつで、1,200万フォリントの予算）。その主な活動内容は、次のとおりです。

- ①国内・国際の協同組合に関する理論的・史的・法的問題。
 - ②社会学者を中心とする、農業協同組合に関する研究。
 - ③経済学者を中心とする消費協同組合（生協）に関する研究。
 - ④経済学・社会学・心理学の各研究者を中心とする工業協同組合に関する研究。
 - ⑤図書館・データ収集——毎週2回リストをつくり、2カ月毎に発刊し、海外68カ国にも送付。
 - ⑥各専門研究者の下で働く「助手のチーム」。
- ところで、この協同組合研究所でのメンバーとの討論のなかで、次の2つのことが日本の生協・協同組合運動関係者へメッセージされました。

1つは、世界の各国の協同組合機関が相互に資料・情報を交換しあうこと——直接的には日本の生協、日本生協連とぜひおこないたいとのこと。

もう1つは、世界中で国際メジャーによって世界経済・貿易の主要な部分を支配されているなかで、ぜひ今日以上に（“東・西の壁”も越えて）各国の協同組合間の“直接の関係”が必要であり、その可能性を具体的に探し求めているとのことでした。

（寿原克周・日本生協連商品事業本部事業運営室）

るし、現にしているようです。たとえば、私たちの現地通訳をして下さった方は、夫人が生協を利用し、家をもとめる時に住宅協同組合に入り、同時に集合住宅メンテナンス協同組合に入り、家の維持・管理をおこなっていて、将来のことを考え貯蓄協同組合で貯えをつくらしているそうです。

今日かかえている課題

以上、今日のハンガリー生協のいくつかの姿を素描してみました。ここで、ハンガリー生協連（正式には、全国消費協同組合評議会）の指導者たちが語ってくれた「ハンガリー生協の今日の課題」を紹介します。

- ①競争下でいかに協同組合の利益をより深めるか。つまり、「世界中どこでも同じように、大企業（国営・個人）と競争せねばならぬ」とのことです。
- ②開発のために、組合員の援助を要請。
店建設の「建設債」（1人1回20万フォリント＝約100万円の制限、銀行より高い利子）を発行して全国で12億フォリント（60億円）も集めたりしています。
- ③協同組合銀行をつくること。
今までの貯蓄協同組合の上につくる。
- ④協同組合内の民主主義を深めること。
「20年前の原則」では今日は通用せず、指導者と大衆との間にすき間が発生した

連続シンポジウム「生協の役割を考える」

第4回
学術・文化・教育のまち—京都

生協はどんな役割を果たせるか

1986年10月27日／せいきよう会館

京都府生協連続シンポジウム第4回が10月27日、せいきよう会館で開かれました。京都が建都1200年を迎えるということで関心が集まっているなかで、京都の文化的特質について川端道喜さんから報告があり、真鍋宗平さんからは現在の京都で起っていること、人

々と資本のかかわりで何が問題であるかということなどについて報告がありました。大学の直接関係者が10数万といわれる京都の町で、大学生協の果す役割りと大学の変化や、地域とのかかわりについて、大学生協京都事業連合の長義一さんが報告しました。

報告①

建都から1200年を
迎える京都

御ちまき司 川端道喜

恒武帝は、どうにもならないようになってうつりをする、権力者の勝手、都合によって莫大な労力を費して京に都を創建しました。以後1200年、その後の経過はよく知られていますが、半分に端折り最近の600年。天下分け目の関ヶ原、これから今日の京のまちに息づいております文化です。家康の孫娘（まさこ）は14歳で京に参りまして、その後一度も江戸には帰らないで京に骨を埋めました。この人が江戸文化を京へ導入し、都の文化を江戸へというパイプ役としての大切な役目を果たしました。この人は完全に都人となって江戸の上層階級に属する人に、京都の王朝文化をどんどん移入させ、京に対する憧れをつくって

きました。江戸文化というのは元禄の文化ですが、この元禄文化の基礎づくりをしました。この時期に西鶴、近松、芭蕉が出ています。1865年「京羽二重」というのが6巻ほど出ます。京都のそれまでの文化を収録し、経済を基礎にして収録されたものです。この最後の巻に今で言いますと当時の文化人の名簿が出て参ります。241人のうち130人が遊芸人で三味線のお師匠さんから、笙、俳諧、お箏、鳴りもの、笛、太鼓、もうあらゆる遊びごとに属するような遊芸の師匠連中が文化人として肩を並べ、家元制度というのが確立されていく。当然地方からもそういう人々がどんどん都に流入し、大げさに言えば文化都市のよう



なものが京に出来上っていく。このようにして文化を広い範囲でみますと、お茶、お華なども家元制度によってどんどん浸透していく。都に行かなければ本物に出会えない、家元がないということを中心になってくる。そして本山や家元に行ったついでに京都の観光をということで観光ということがはやってくる訳です。

一足飛びに明治の維新にまいりまして、天皇さんは東京に行ってしまったので都は藻掻けの殻かという、そうではなく、家元は都

に居る。ところがこの明治の風潮というものをわれわれは下敷きにはいけないと思う。この時期は特殊な背景がありました。文明開化で欧米一逼倒。お茶もお華も完全に衰退し、富国強兵にこれからという政府の政策。明治27～28年に初めて建都1100年が日清戦争の戦勝記念みたいに祝われる。新しいものをどんどん取り入れ、アトラクションに都をどりができる。御所で博覧会をやる。この博覧会というのは今でいう縁日のちょっとこまなようなことで、あんまり1100年ということ意識しないです。だから、100年前はこうだったから1200年はこうだとは言えない。1200年を考える時に、本来の京都をとり戻す、生活を含めたそういうものを覗きにきたいというような意欲を湧かす。つまり声なくして人を呼ぶわけです。この原点が必要ではないか。京都へいらっしゃいいらっしゃいと、あっちこっちに出かけて行って呼びかけるのではなくて、何も言わないけれども1回京都に行ってみないなあと思わせるようなことが大事なのではないでしょうか。

報告②

いまの京都で
起こっていること

真鍋宗平デザイン事務所 真鍋宗平

このごろ、直接モノを作っていく人達がだんだん元気がなくなってって、一般的な意味での流通の世界の人達や組織を動かす人達、究極的にはお金を動かす人達というあたりが元気だというふうに思っています。そういう人達が最近よく生活文化ということを使います。中身としては消費財文化というのをとらえて生活文化というふうに言っています。彼らは、いま非常にゆとりが出てきて、食べた

り、着たりという最低水準の生活を考えるのではなくて、もう少し文化的な欲求を持ち始めていると言っています。ところが、実際には世の中全般を見た時にそうではないということをつくさん経験します。約20年前ごろから新しい団地や新興住宅が増えましたが、家の状態は新しくならない。手入れをしなければならぬほど傷んでも経済的にしんどい時期で、住居のリフレッシュに成功しません。

だから町全体が汚くなっていくようで、ある意味では文化度みたいなものを後退させているという現象にもつながっています。ですから流通の人達がいうほど生活の状態はよくなってないということです。非常にきれいな写真のチラシなんかを見て感じるのですが、文化というのはたしかに豊かさの表現であったり、あるいはモノも含まれているだろう。しかしどうも精神的なものも勿論、文化の中には非常に重大なんです、本物というような部分とのかかわりがいいかなあと。思います。各種の雑誌にあるような風景というのは自分の家の中で実現するのはほとんど不可能です。そこで気がつくのは、僕たちのまわりに氾濫しているものが、おおむね商業主義のレンズを通して見られているということだと思えます。商業主義の目を通して見られた風景というのがいっぱいあって、その中から本物を見抜くということは大変な難事業ですが、それをやらないと生活文化というものは消費財文化ということにどんどん流されていく。

本物を見わかる。それを見つけるための主たるよりどころは暮しとか、自分自身とか、そういうものに対する自信とか、自負とかいうものが大事な要素ではないかと思えます。

今、建都1200年で京都は各種の計画もっています。たとえば来年の歴史都市博、西陣では織物博覧会、あるいは国際会議、二条駅前前の整備計画、市役所前に地下街をつくる計画、南部の学園都市、名神高速道路のトンネルの倍化計画と、各種の開発計画が目白押しと

いうことです。ところが逆に押し返している問題もあります。嵐山朝日町でのマンション建設反対運動による差し止め、祇園新橋での集合住宅計画に対する協定の締結など、押し戻した例も出てきています。計画というものは我々の頭越しに進むけれども生活次元での押し戻し作業も進んでいる。我々は地域で色んなことをやってきました。これは戦後の憲法の下で作り出してきた一種の文化だと思います。それはたとえば、大山崎の地域では子どもまつりや親と子の劇場が生まれ、よい映画の会、学童保育が全小学校に、保育所が1つから3つに増え、教育懇談会が定期に行われ、生協は非常に大きくなりました。自治意識という点でも問題が起った時に寄り合って話し合うという組織が随分たくさんできました。そういうのは全部ひっくるめると、やっぱり大きな文化の広がりだと思えます。文化というものは自ずから暮しそのものであると考えます。

川端先生のお話で、天皇が移り都は藻抜きの殻だけれども京都の町衆は残った。生き残ってなおかつ文化を育ててきた。このあたりで僕は京都というものの幸せというものを、みんながもっと論議をする必要があると思う。

京都で生きる幸せ、自分自身が生きてきた幸せ、あるいは地域で私が生きてきた幸せみたいなものを、もう少し踏まえながら新しい展望をみつけていくということは、とても大事な事ではないか。自信を持ちながら生きていくことが大事ではないかと思えます。

報告③



大学生協からみた 大学と大学人の変化

大学生協京都事業連合専務理事 おさ 長 義一

1980年に大学生協の役割と当面する課題を

全国的に合意しまして、これを指針として活

動を続けています。今年12月に連合会レベルで第30回総会がございまして、これまで6年間前進を切り開いてきた大学生協の役割、課題を引き続き堅持しながら90年代、21世紀へ向けて大学生協の次の課題、テーマをどう考えるかということで現在全国的な討議がなされております。前の「役割、課題」は学園に広く深くということで、キャンパスの隅ずみに生協活動を根づかし、全学、全階層の方に支えられた生協活動を進めていく。今度の新しい「役割、課題」では今までの蓄積を生かし積極的に社会との関係を大事に考えていくということを打ち出しています。

今日の大学の役割を考えていく場合に、やはり大学の生活の中での生活を支える大学生協ということが1番に浮び上って参ります。いろいろな事業を多面的に行っています。共済事業では直接的な救護活動だけでなく、さまざまな事故の事例から、こんなことは危険なんだ、こういうことには注意しようということで、お互いの生活を安全に暮らしていくような協同の活動を第1に考えています。

組合員の参加の広がりや生協活動の幅と厚みを作ってきている。この参加の力で組合員がどんどん成長していつている。

新入生のためのいろいろな情報やアドバイス、付き添いのご父兄への大学のガイダンスとか共同購入の呼びかけなど。そうして生協に関心をもち組合員の要求を進める活動や、お店の品揃えを改善していく活動に自分なりの役割を発揮してみたいという人達が増え、一人ひとりの方が気軽に生協の活動に加わってくる。「知、知、考、話」という活動スタイルがあり今、何が問題なのかを知り、知ったら仲間にも知らせそして一緒に考え合い、話し合いましょうということで、大学生協のキャンパスの中に根付いてきました。また「ひとこと活動」といってカードに意見や苦情を書き投書箱に入れ、その答えについてまた貼り出していき、こういうコミュニケーションをしています。そのことによって品揃えが変わったということで実現実感で一層意欲が湧いてきてまた声が出したくなる、これが生協への参加の問題としてとらえた時に非常に気軽に

参加出来るわけです。これは生協の事業力量を強化していく上でも大きな力になっていきます。また研究活動、教育活動でもその活動の一端を支える事業力量が少しついてきたかなというレベルです。絶版になったすぐれた書籍の復刊、専門書の供給により日本の良心的な出版文化、出版会社の将来を切り開くという意義ある活動。研究機器、コピーサービス、キャンパスカルテのとりくみの活動。先生方の学会の足の手配から宿舍、会場、レセプションを含めてかなり総合的に対応できる。そういうことをずっとやりながら大学の勉学なり研究なり、教育活動を具体的に縁の下で支えていくような活動を組合員と一緒に展開をしています。また読書推進活動というのもやっています。

大学と地域社会を結ぶということで、今まではあまり大学と地域の協同というのはありませんでしたが、これから力を入れなければならない部分だと思います。生活、生活文化、地域の経済をどうしていくのか、生涯教育の問題などの活動が課題となってきます。その活動の前提条件として、大学生協の活動を地域の方々にも知っていただく、社会に向けて広報していく必要がある。その第1段階として組合員同志の交流を活発にやっていきたいと思っています。また留学生のためのホームステイの協力などがあります。

最後に大学生協連、全国の連帯、京都を中心とした地域生協のご協力を得ながら、京都に研修、宿泊施設の建設準備作業が進んでおります。本当に来てよかった。生協らしいサービス、日本の伝統文化に触れられるような施設にしたいと思っています。物理的に施設があるのではなく、この施設がどれだけ沢山の人の熱い心で支えられるかということが大事なのだと思います。



連載4 京都の産業と動き

高付加価値の“京もの” のこれから

京都の地域経済が論ぜられるとき、他府県では地場産業という分類が使われるところを、京都では伝統産業という呼称が頻発する。地場産業の語義には、京都人が誇りとする伝統性とブランド性が欠落している点に抵抗感が残るのであろう。事実、永年の間、“京もの”は優秀な技術に裏打された品質とデザインで国の内外を問わず定評があり、そのことが、経営面では高い付加価値を業界に保証してきたのである。かつて瀬戸市の陶磁器産業振興のため京都へ視察にこられた同市の市議員団と懇談の機会をもった際、「瀬戸物」が陶磁器の代替語として日常的に使われるほど知名度は高いのに、安物のイメージが強くて、いくら技術的に秀れた物を制作しても、とても“京もの”のような高値が通らず、付加価値生産性を高めるために大変な努力がいる」と残念がったり、京焼（俗に清水焼と呼ばれる）を羨んだりされていたのが印象に残る。王朝千年の歴史に培われ、永年にわたって受け継がれてきた技術、京都の伝統工芸は、先人達が私たちに残してくれた大いなる遺産である。

伝統産業とは

昭和49年に、伝統技法の保護・継承をテコに業界振興をはかることを目的として、「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」（伝産法）が制定施行されたが、同法は伝統産業を次のように要件を指定し、定義づけている。

- ①主として日常生活の用に供される物
- ②製造工程の主要部分が手工的であること
- ③伝統的な技術又は技法により製造される物
- ④伝統的に使われてきた原材料が使用され

製造されるもの

⑤一定規模（10企業または30人）の産地形成がなされていること

京都府下では、次の16品目が伝産法にもとづく伝統的工芸品として指定を受け、産業全体に占める地位は他産地に比しきわめて高いのが特徴である。

工 芸 品	主 要 産 地
西 陣 織	京都府・京都市外4市18町
京 鹿 の 子 絞	京都府・京都市外1市9町
京 仏 壇	京都府・京都市外5市2町
京 仏 具	京都府・京都市外5市2町
京 漆 器	京都府・京都市
京 友 禅	京都府・京都市外4市1町
京 小 紋	京都府・京都市外4市1町
京 指 物	京都府・京都市
京 繡	京都府・京都市・宇治市
京 く み ひ も	京都府・京都市・宇治市
京 焼・清 水 焼	京都府・京都市外5市
京 扇 子	京都府・京都市外2市1町
京 う ち わ	京都府・京都市・八木町
京 黒 紋 付 染	京都府・京都市外2市1町
京 石 工 芸 品	京都府・京都市外4市
京 人 形	京都府・京都市外3市

なお、京都では、原材料入手難や、効率化をはかり近代的技法を採用しているため、伝産法の指定を受けてはいないが、他の要件にはおおむね合致するものもふくめて伝統産業と呼称している（たとえば丹後ちりめん）。

京都の伝統産業の概況

わが国経済の高度成長期を経て、国民の日常生活は物的な豊かさと便利性を享受してきたが、めざましい技術革新と量産体制のもとで、現代人の生活は殺伐化し、国民の多くは、

その日常生活の中に真の豊かさと潤いを求めて、“使い捨て”でなく、“愛用する”生活用品への欲求が高まり、それが伝統的工芸品の需要増大につながって、高度成長の終焉を迎えた第1次オイルショック以後も、需要の限定化がすすむ和装用繊維品をのぞいて、伝統産業の需要は着実に拡大してきた。今日、ハイテクのなかでハイタッチの重視が叫ばれる所以であるが、京都府下の伝統産業の概況（昭和59年）は表のとおりである。ただ、近年の推移を個別にみると、代替機能品の増加発達や後継者難、付加価値生産性の劣化などから、漆器・扇子・神祇調度・清酒等の業界では生産額は漸増をみているものの、小規模事業者の淘汰がすすみ企業数では減少してきている。

業界の課題は……

最大の共通課題は伝統的技術保持者の確保である。技術・技法の習得に長年月を要し、家内工業生産形態における労働環境の相対的悪条件から、若年労働者の充足もむずかしくて熟練技能者の技術継承が円滑にすすまず、一方、高齢化する熟練者の減少ともなっていて伝統的技術の維持、確保が困難になりつつある。第2には、伝統的な良質の原材料が枯渇し、入手難を打開するため外国産に依存せざるを得ないといった業界もみられ、これは副資材の分野にも及びつつある。第3には、伝統的工芸品の価値が再認識されつつあるとはいえ、最近の経済情勢や消費の個性化によって、装飾性よりも手工芸の素朴さを基調とし、機能的で経済性も秀れた製品へのニーズが高まりつつあることで、従来の“高品質の京ものは高いのが当たり前”という論理が、一部の美術工芸品はともかく、産業としては通用しがたくなろうとしていることである。また、前号以前にたびたび指摘してきたように、円高と輸入圧力によって外国製品との競合もますます激化が予想される。

これらの課題への対策として、伝産法は国庫補助による技能者養成を中心に運用されてきたが、今後は、これと併行して需要開拓の展開が緊要である。伝統産業は小規模生産が主流であり、多くの産地において、消費需要の動向を的確に把握、これに適応して伝統の味わいを生かす活動が必ずしも十分ではない。原材料の確保・代替品の開発と共に、行政の援助、公的試験研究機関の技術的指導、業界組織の活性化、消費者団体との交流などにより、産地をとりまく内外の環境変化への対応を期待したい。特に経済性の追及について、工程、材料の一部に新技術を活用し、“より良いものをより安く提供する”という商品開発もあっていいのではないか。たとえば、北欧の生協では、高名な工芸作家に依頼して秀れた工芸品を創作し、それを原型として量産することによって組合員に満足を与えるといった事例もある。

（杉山繁・地域経済研究会）

表 京都府下伝統産業の概況

昭和59年、金額単位：百万円

	企 業 数	従業者数	生 産 数
総 数	23,868	104,925	788,307
繊維関係総数	21,297	90,323	598,083
西 陣 織 物	8,936	38,800	320,662
丹 後 織 物	8,833	17,812	151,995
京 友 禅	2,593	24,430	92,449
その他染色品	652	6,544	30,414
ひも、糸、繡等	283	2,737	2,563
工芸品関係総数	2,494	11,859	63,051
陶 磁 器	358	1,760	9,337
金 工 品	203	1,745	11,830
漆 器	88	252	1,184
木 工 品	56	119	2,211
竹 工 品	133	319	2,003
和 紙	36	76	140
仏 壇・仏 具	327	1,800	4,879
石 工 芸 品	77	146	3,049
人 形 等	122	930	5,200
筆	16	18	—
扇 子 等	230	1,038	6,608
神 祇 調 度 等	79	450	1,900
そ の 他	769	3,206	14,710
食品関係総数	77	2,743	127,173
清 酒	77	2,743	127,173

資料は全国伝統的工業品総覧による。ただし、西陣織物、丹後織物は業界団体の調査結果、また清酒は59年工業統計調査（従業者・4人以上規模）

連載3 京都の小売業はどうなっている、どうなる

業態間競争で苦戦する 小売市場

小売市場の誕生

商店街とならんで、地域の消費者の身近な小売商業施設として小売市場があります。米価が暴騰し、全国各地で米騒動が起きるといった社会情勢の大正7年に、その対策として「日用品廉売所」の名で京都市に始めて公設小売市場が開設されました。生活必需品の安定供給・物価抑制・品質保持等の台所機能と、今でいうワンストップショッピング機能によって、当時の消費者の強い支持を受け、すでに登場していた百貨店とともに、小売商業界における新たな業態開発と評価することができます。当時の生活水準からみれば、いまのスーパー以上に目新しい存在と映ったことでしょう。

順調な増加から制限へ

公設市場の増設に続いて、私設市場も各地域に次々と開設され、戦時の空白期をのぞいて、昭和40年代半ば頃まで順調に増加しましたが、地域によっては乱立状態を呈し、小売市場相互間、周辺小売商間での過当競争が激化してきたため、昭和34年に小売商業調整特別措置法が制定され、政令指定地域（府

内では京都市）での新たな開設は許可制となり、また、この頃からスーパーマーケットの進出が始まり、従来、小売市場が果してきた機能を代替する形となって、小売市場の増勢にストップがかかりました。京都市内でも表のとおり、最近6年間、新規の開設はみられません。

商調法では小売市場の定義を、「一棟の建物内で、50㎡未満に区分された生鮮食品等の小売店が、10店舗以上集まって営業する施設形態」としており、通常対面販売方式をとっています。京都市内の小売市場でみますと、1市場あたりの店舗面積は340㎡にすぎず、1店舗あたりのそれはわずか15.3㎡で、市場商人といわれる出店者の零細性を示しています。

空店舗増え転機に

小売市場の9割強は私設市場ですが、その大部分は市場開発専門業者が所有経営するもので、出店者が個々に賃借しており、店舗も狭い上に取扱品目・販促手段などが制約され、環境変化にともなう改装もままならず、数多くの市場で老朽化がすすみ、立地条件に恵まれた一部の市場をのぞいて空店舗が目立つようになり、それがまた客足の落込みにつながるという悪循環に追い込まれています。また市場運営では出店者の零細性・生業感覚から共同意識の低さも指摘されています。一方、協同組合を結成して市場を買取り今日的な改装をほどこしていきいきと運営している事例や、POSシステムを導入してセルフ化売場を併設するなど意欲的な市場もあり、スーパーなど競合する業態に対抗して生残るため、ハード・ソフトの両面で、出店者の意識や業態のリフレッシュが求められています。

(貝原収・地域経済研究会)

表 京都市内小売市場の店舗数・市場面積

	市場数			店舗数			市場面積㎡		
	総数	公設	私設	総数	公設	私設	総数	公設	私設
総数	132	12	120	2,940	328	2,612	44,886	4,187	40,699
33年以前	68	11	57	1,387	303	1,084	17,392	3,757	13,635
34～53	60	1	59	1,462	25	1,437	25,565	430	25,135
54	3	—	3	79	—	79	1,554	—	1,554
55	1	—	1	12	—	12	375	—	375
56～60	—	—	—	—	—	—	—	—	—

京都府商工部調
⑤ 小売商業調整特別措置法に基づく許可市場で、昭和60年12月31日現在開設しているもの。

●気になるこの本

「虹の語らい」

—「おっちゃん記者」生協規制に物申す

落合巳代治著

同時代社

1,300円(86年8月刊)



桑原良夫

(静岡県生協連専務理事)

「わたしが生協へ入ったために県連理事会のガラクタが悪くなった」といい、そして「たいへん申し訳ない次第」とつけ加える。通称「落チャン」。本名落合巳代治氏。「虹の語らい」の著者である。一匹狼だったローカル新聞社主の頃の野人氣質が骨の髄までしみこんでいて、まだ完全に脱け切らない。「生協

の人は真面目で紳士で、どうも窮屈だなあ」とうそぶく。おかげで県連理事会も幅広く活発な議論ができるようになった。

この人。元はといえば労働運動のリーダー。終戦直後、市議員や労農党中央委員などをつとめたが、日本の労働運動の転機となったといわれる1953年の日産争議で会社を解雇され、55年からローカル新聞を創刊した。以来20余年、健筆を揮ったが、息子さんがか業を継がないとあって62歳のとき発行権を譲渡。それから2年後の64歳のとき、たまたま常勤役員欠員中の為と生協理事長に懇請されて就任した。

「マスコミは事実を伝えるが真実の追及に欠ける」といい「マスコミは体制的だが、はっきりと大衆の側に立つべきだ。マスコミの顧客は大衆だ」と主張する。その姿勢でマスコミに挑戦して論陣を張ったのが「おっちゃん談議」というタイトルの論談。「わかりやすく面白く」をモットーに二千数百回書きまくった。「虹の語らい」はその延長線上にあるもの。「生協規制の理不尽さに憤りを感じて」出す気になったというのが、時事、平和、生協問題と3部に分かれ「一般向け」も配慮している。

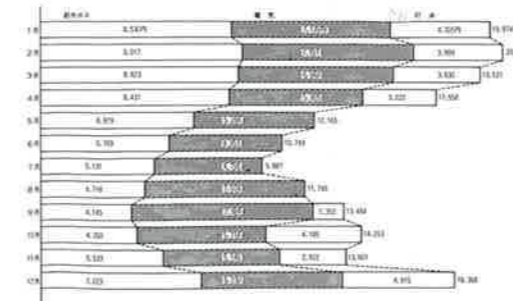
ミニミニ情報 ①

ムダ使いしていませんか？

光熱費がかさむ季節になりました。都市ガス、LPガス、電気、深夜電力、灯油などと燃料もさまざまですが、1年中で1番光熱費が多いのは2月です。お風呂、暖房が大きな比重を占めますが、ガス代は2月、電気代は冷房が必要な9月、灯油は12月が最大使用月となり、燃料の使用に特徴があります(表1)。

生活様式の変化とともに、電気温水器などの集中給湯も普及しています。電気温水器の場合は深夜割引料金で1kw/h当り従量電灯の約半分ですがちょっとし

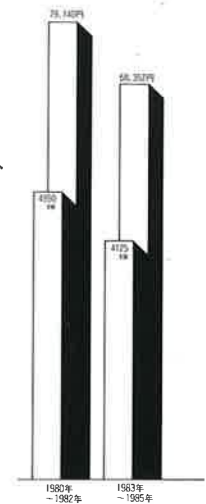
表1 月別光熱費



家計から

表2 深夜電力の節約

た工夫でさらに節約ができました。表2は工夫を実施する前の3年間の平均と、実施後の3年間平均をあらわしたものです。3年間ずつの平均で年間使用量で825kw、金額に対して年間10,788円低くおさえることができました。これは給湯の量に合わせて通電のスイッチを入れたり切ったりする方法です。この他にも工夫すれば光熱費は少しずつですが節約できることがあります。こまめに電気のスイッチを切るとか、ガスの炎が鍋の底よりはみださない程度の火加減とか、器の底がぬれたまま火にかけないとか、見えないテレビをつけっぱなしにしないとか、湯沸器の種火をつけっぱなしにしないとか、色いろありますが、ちょっと気をつけるだけで少しずつではありますが、年間に総合してみると大きな額になります。(高柳 久子)



京都府生協連主催の集会ご案内

連続シンポジウム～生協の役割を考える～

〈第6回〉

- テーマ：高齢社会と社会福祉
～生協としてどのようにかわるか～
- 講師：竹原 一 雄氏（京都府老人クラブ連合会会長）
都鳥 正 喜氏（京都市社会福祉協議会福祉部長）
天野 みどり氏（京都生協共済委員会委員長）
- と き：1月26日（月）10:00～12:00
- ところ：せいきょう会館 3F
- 参加自由・無料

京都消団連主催の集会ご案内

第1回「くらしのゼミナール」

- と き：2月18日（水）10:00～16:00
- ところ：労働者総合会館（四条御前、801-5311）

○内容：第1課「悪徳商法にご用心——消費者被害と訪問販売法」

三木俊博氏（全国訪問販売法改正推進連絡協議会事務局長・弁護士）

第2課「くらしと税金——どうなる税制改革」

藤原 隆氏（税理士）

○参加自由・無料

集会ご案内

「どうするコメ！生産者と消費者のつどい」

- と き：2月4日（水）13:30～16:30
- ところ：農協会館（京都駅南、681-4311）
- 主催：食管制度を守る京都府民会議
京都の農林業を発展させる会
京都消費者団体連絡協議会
- 内容：意見発表（消費者、米穀小売商、生産者）
討 論
コメント（研究者、農協中央会）
- 参加自由：無料

ミニミニ情報 ②

学園から

個室生活のプロ達の ライフスタイル

「黄金の60年代」という言葉があるらしい。「高度成長」の真只中で政治・経済・社会が大きく変動し始め、そして、何よりも、日常の生活にカラーテレビ、エアコン、車、などが次つぎとはいり、ライフスタイルが大きく変化しようとしていた。

昭和43年は、このような時代の1タームである。今年、大学生協が迎える新しい組合員（新入生）は、この年に生まれた世代である。核家族が定着し、生まれながらにして「個室」が与えられ、育った。彼らは、「個室生活のプロ」である。

昭和42・3年当時、4.5畳、畳1枚1,000円、というのが、最も平均的な下宿代であったと思う。その時に生まれ、いま大学に入ろうとしている彼らの平均的な下宿代は、6畳＋キッチン（＋トイレ）、

2万円から2万5,000円というのが最も平均的なパターンである。

個室をもちある程度家族から独立した生活スタイルをもつことを当然とする世代でも、下宿生活となると別なものらしい。1ルームにすべての生活資材を入れ下宿生活をする。個室を使うことに馴れていても、生活をする「技」を知らない彼らは、テレビの卓上アンテナが付けられない、米をそのまま電気ガマにいれてしまった、などの珍事はザラである。

自立する条件と生活の知恵がうまく結びつかないのである。大学生協は、今、「先輩から後輩に伝える」生活提案など、ここに向けた多様な商品活動に力をそそいでいる。

（小見 弘）